

○佐世保市トップヒアリングインタビュー内容のまとめ

次期「新させぼっ子未来プラン」策定に係る市長インタビュー結果

【項 目】

1.佐世保市における子ども・子育てを取り巻く現状について

①佐世保市の強み(特長)について

- ・子育て支援事業について、全国的に行われている事業は佐世保市においてもほぼ同じように行われており、強みであると言える。
- ・保育コンシェルジュも配置しており出産から育児まで切れ目のない支援が行えている。
- ・充実した動物園や水族館があるところも強みである。

②佐世保市の弱み(問題点)について

- ・多様な事業を行っているが、十分に、市民に知られていないことが課題である。
- ・全天候型の遊べる場所に対するニーズが高いことから、新設を予定している。
- ・ニーズが多様化する中で、限られる行政資源をいかに有効に活用し、答えていくのが課題である。

2.今後5年間で想定される課題について

- ・幼児教育・保育の無償化への対応や、児童クラブについてニーズを踏まえた計画的な整備、子どもの貧困対策でのボランティアの充実などが考えられる。
- ・人口減少の中で施設面での適正配置や有効活用をどのように進めていくのか検討が必要とされる。



平成31年2月1日実施

3.課題の解決に向けた役割と、実施すべき施策・取組について

- ・暮らしやすさ、住みやすさは移住定住につながるため、今後向上させていくことが必要あり、子育てしやすいまちということがキーワードになる。
- ・宇久、黒島、高島など離島における保育サービスの維持が課題である。
- ・育みたい子ども像は、どのような変化にも対応できる元気でたくましい子。現在は過保護気味ではないかと思うところがある。日常生活において、親から自立し、健康に育ってもらいたい。
- ・親育ちが必要であると感じている。親も佐世保市でしっかり育っていただきたい。
- ・子育て日本一を目指したい。
- ・児童クラブを整備しようとしても周辺住民から反対されるケースがあるなど、子育てに対して以前より不寛容になっているように思う。
- ・保護者についてもニーズや要望は多いが地域と関わろうとしない方もいらっしゃる。求めるだけでなくお互い様の意識で支え合いが大切だと考える。そのためにも気軽に参画できる場づくりが必要ではないかと思う。



インタビュアー

朝長市長

次期「新させぼっ子未来プラン」策定に係る議長インタビュー結果

【項 目】

1.佐世保市における子ども・子育てを取り巻く現状について

①佐世保市の強み(特長)について

- ・ 子ども関係の部局を子ども未来部として特化させたことは事務処理の効率化等の面で長所である。
- ・ すこやかプラザができたことで窓口もワンストップ化している。
- ・ 保育料の所得基準も細分化しており一定の手厚い支援はできている。
- ・ 佐世保市は地元への愛着度が高い。歴史的な背景からつながりも強い。つながりだすとパワーになる。

②佐世保市の弱み(問題点)について

- ・ まずは保育現場の職場環境の向上が必要。
- ・ 以前は人手不足ではなかったが、近年、保育士不足が問題である。
- ・ 資格をもっている潜在的な保育士は少なくないが実際は不足している。
- ・ 待遇面については運営費補助が出ているが園の判断に任されている。佐世保市は中核市であるため、補助の活用状況の監査業務を行えるため、園と連携しながらの対応が求められる。
- ・ 以前は、保育士側が働ける園を探したが今は逆になっている。なぜミスマッチが起きるのか。給与面と、自分の思い描く職業像とのかい離が原因ではないか。これは介護職も同じだと思う。



2. 今後5年間で想定される課題及び課題の解決に向けた役割と、実施すべき施策・取組について

- ・ 物質的に豊かになり、ちょっと頑張れば何でも手に入るようになったことから、ライフスタイルも大きく変化しており、共働きが当たり前になっている。今後も同じ状況が続いていくと思う。
- ・ 佐世保市は祖父母との近居率が高いが、現代又は次世代の祖父母は趣味等も幅広くなり自分の時間が増えていくと思う。
- ・ 今後5年間は、潜在保育士を保育の場に呼び戻すことが課題である。
- ・ 今の子どもの親は成熟社会育ちであり、感覚が違っている。想像もできない。課題認識にギャップがあるため、若い世代の生の声を聴くことが必要である。
- ・ 現代は、情報が多く暮らしやすいが、夢の先まで見えてしまっている。だから、夢を描ける子を育むまちを目指していただきたい。



インタビュアー

市岡議長
(手前から2番目)

平成31年2月1日実施